

4 大学への愛着度は学校生活充実度と関係しているのか

中西 希和

はじめに

私は、最初に問30の「あなたの学生生活は充実していましたか」と問31の「もし大学を選びなおせたら、もう一度、本学に入学しますか」のクロス集計を見て、「この2つは関連しあっている」と思った。「学生生活が充実していた」と答えた学生のうち63.4%が「再び入学したい」と答えている。それに対して、「どちらかといえば充実していた」「どちらともいえない」と答えがネガティブになるにつれ、「再び入学したい」と答える学生のパーセンテージが減少している。だから、この2項目は関連している、と考えた。しかし、ふと全ての項目においてそれが言えるのか気になり始めた。そこで、色々な項目とこの2項目それぞれと分析しあうことにした。この2つの項目がどの項目で同じような結果を出し、または違う結果が出すのだろうか。私はこのことについて分析したい。

学生生活の充実度と大学への愛着度のクロス表

		大学への愛着度			合計
		たぶん入学する	どちらともいえない	合計	
学生生活の充実度	充実していた	144 63.4%	54 23.8%	29 12.8%	227 100.0%
	どちらかといえば充実していた	35 29.7%	49 41.5%	34 28.8%	118 100.0%
	どちらともいえない	6 11.8%	13 25.5%	32 62.7%	51 100.0%
	合計	185 46.7%	116 29.3%	95 24.0%	396 100.0%

p<.001

ここで、二つの質問項目ともに、ネガティブなほうの二つの選択肢を選んだ人は非常に少なかったので、「どちらともいえない」に統合した上で、以下の分析を進めることにしたい。

4.1 大学への愛着度とのみ相関する項目

まず、入学時の志望順位および入試形態から、充実度や愛着度との関係を調べてみよう。そこで、それぞれのクロス表をまず出してみた。すると興味深い結果が出た。

q4[志望順位]と大学への愛着度のクロス表

		大学への愛着度			合計
		入学する	たぶん入学する	どちらともいえない	
q4[志望順位]	第一志望	142	55	40	237
		59.9%	23.2%	16.9%	100.0%
	第一志望以外	40	59	56	155
		25.8%	38.1%	36.1%	100.0%
合計		182	114	96	392
		46.4%	29.1%	24.5%	100.0%

p<.001

q6[入試の種類]と大学への愛着度のクロス表

		大学への愛着度			合計
		入学する	たぶん入学する	どちらともいえない	
q6[入試の種類]	一般入試・センター入試	112	84	83	279
		40.1%	30.1%	29.7%	100.0%
	推薦入試・AO入試	21	10	3	34
		61.8%	29.4%	8.8%	100.0%
	内部校推薦	42	14	9	65
		64.6%	21.5%	13.8%	100.0%
合計		175	108	95	378
		46.3%	28.6%	25.1%	100.0%

p<.01

q4[志望順位]と学生生活の充実度のクロス表

		学生生活の充実度			合計
		どちらかといえ		どちらともいえない	
		充実していた	ば充実していた		
q4[志望順位]	第一志望	141	67	29	237
		59.5%	28.3%	12.2%	100.0%
	第一志望以外	83	49	22	154
		53.9%	31.8%	14.3%	100.0%
合計		224	116	51	391
		57.3%	29.7%	13.0%	100.0%

p=.547

q6[入試の種類]と学生生活の充実度のクロス表

		学生生活の充実度			合計
		充実していた	どちらかといえ ば充実していた	どちらともいえない	
q6[入試の種 類]	一般入試・セン ター利用入試	152 54.7%	86 30.9%	40 14.4%	278 100.0%
	推薦入試・AO入 試	24 70.6%	7 20.6%	3 8.8%	34 100.0%
	内部校推薦	43 66.2%	17 26.2%	5 7.7%	65 100.0%
	合計	219 58.1%	110 29.2%	48 12.7%	377 100.0%

p=.210

上の4つの表からわかることは、入学時の志望順位や入試形態は、卒業時の大学への愛着度には影響を与えているが、学生生活の充実度には関係がないということである。

これらの分析により、志望順位と入試形態が大学への愛着が生じる要因になっていると考えられる。第一志望で入学した学生の多くが大学への強い愛着を示している。他方、一般入試・センター利用入試で入学した学生は他大学と併願をしているケースが多いため、推薦入試・AO入試や内部校推薦のような強い愛着はない。よって愛着度は、大学への志望度が高いほど強いことが分かる。

4.2 学生生活充実度とのみ相関する項目

次に、学生生活の中でも重要な位置を占めると考えられる、サークルや同好会の活動をよくしていたかどうかという点から大学への愛着度と学生生活の充実度をクロス集計で分析したい。

まず、サークル・同好会活動が学生生活の充実度を上げることはすでに明らかになっている(223ページの下表を参照。)そこで、大学への愛着度との関係も見ると次の表(232ページの上)より、サークルなどの課外活動が大学への愛着度にあまりつながっていないことがわかった。

次に、大学で受けた授業の内容と充実度や愛着度との関係において特徴のある項目を示そう。まず、実習やフィールドワークのような体験的に学ぶ機会がよくあったとする人たちの81%が、学生生活が充実していたと答えており、このような体験的学習が充実度と関係していることがわかる(232ページの下表。)しかし、今度はそれと大学への愛着度との関係を見ると、同様に体験的学習がよくあったとする人たちの57.1%しか「もう一度、本学に入学する」との愛着を感じておらず、そこに相関関係を見ることはできない(233ページ

の上の表を参照)

これらの分析の結果、学生生活での課外活動と授業の内容が充実度に関係していると考えられる。サークルや同好会活動をよくした学生の8割近くが、同様に、実習やフィールドワークをよくした学生の8割以上が、高い充実度を示している。このことより、普通の講義ではない、体験的授業や課外活動(サークルや同好会)をすることが、学生生活充実度を高めていると分かる。

q21b[学生生活の活動: サークル・同好会]と大学への愛着度のクロス表

	大学への愛着度			合計
	入学する	たぶん入学する	どちらともいえない	
q21b[学生生活 よくした の活動: サークル・同好会]	77	46	35	158
	48.7%	29.1%	22.2%	100.0%
少しはした	42	36	24	102
	41.2%	35.3%	23.5%	100.0%
しなかった	59	31	36	126
	46.8%	24.6%	28.6%	100.0%
合計	178	113	95	386
	46.1%	29.3%	24.6%	100.0%

p=.376

q13d[授業の様子: 実習やフィールドワーク]と学生生活の充実度のクロス表

	学生生活の充実度			合計
	どちらかといえ 充実していた	どちらとも ば充実していた	どちらとも いえない	
q13d[よくあった 授業の 様子: 実習や フィー ルドワ ーク]	34	7	1	42
	81.0%	16.7%	2.4%	100.0%
ある程度あった	85	41	16	142
	59.9%	28.9%	11.3%	100.0%
あまりなかった	81	50	28	159
	50.9%	31.4%	17.6%	100.0%
まったくなかった	24	18	6	48
	50.0%	37.5%	12.5%	100.0%
合計	224	116	51	391
	57.3%	29.7%	13.0%	100.0%

p<.05

q13d[授業の様子: 実習やフィールドワーク]と大学への愛着度のクロス表

		大学への愛着度			合計
		入学する	たぶん入学する	どちらともいえない	
q13d[授業の 様子: 実習や フィー ルドワ ーク]	よくあった	24	11	7	42
		57.1%	26.2%	16.7%	100.0%
	ある程度あった	61	51	30	142
		43.0%	35.9%	21.1%	100.0%
	あまりなかった	76	40	44	160
		47.5%	25.0%	27.5%	100.0%
	まったくなかった	21	12	15	48
		43.8%	25.0%	31.3%	100.0%
合計		182	114	96	392
		46.4%	29.1%	24.5%	100.0%

p=.217

しかし、それらの体験的授業やサークル・同好会は、大学への愛着度とはならないことがわかった。

4.3 愛着度と充実度の両項目に 관련된 項目

ここまでの分析から、入学時の志望度の高さがそのまま卒業時の大学への愛着に、また、体験的な授業やサークル等の課外活動への積極的な参加が大学生生活の充実度を高めていることがわかった。しかし、愛着度と充実度の両方を高める要因はないのだろうか。

そもそも、大学生生活の中心である、授業に各自が取り組む態度や、教員側の学生に対する態度、あるいは大学生生活で身につけた知識や技能、さらには授業への満足度は、愛着度と充実度にどのように影響しているのだろうか。すでに、220ページにおいてみたように、授業中にディスカッションに積極的に参加した経験が充実度を高めることはわかっている。そこで、愛着度との関係もみてみると(234ページの上の表を参照)、ディスカッションに参加することは、大学への愛着度も高めることがわかった。

次に、問15で質問されている各項目と愛着度・充実度との相関係数をとってみる。すると、すべての項目について、愛着度・充実度の両方との高い相関を確認することができた(234ページの下表。)すなわち、教員と「気軽に相談できる」ことや「的確なアドバイスをくれる」ことや「学生の意見を尊重してくれる」ことは、大学への愛着度を高め、学生生活が充実したものとして感じられることに、ともにプラスに働いているといえる。

今まで検討してきた要因は、入学時の志望度であるとか、あるいは体験的授業や課外活動への積極的な参加など、どちらかといえば個人的な要因であった。しかし、それでは愛着度か充実度かどちらかにしか影響

がない。しかし、ディスカッションや教員への感想は、いずれも大学内での社会関係に関することであって、それが両方の要因にプラスの影響を及ぼしているということがわかる。

[ディスカッションに参加]と大学への愛着度のクロス表

		大学への愛着度			合計
		入学する	たぶん入学する	どちらともいえない	
q14b[授業への取り組み]	あてはまる	36	14	11	61
		59.0%	23.0%	18.0%	100.0%
方: ディスカッションに参加	ややあてはまる	83	58	32	173
		48.0%	33.5%	18.5%	100.0%
	あまりあてはまらない	55	40	40	135
		40.7%	29.6%	29.6%	100.0%
	あてはまらない	8	4	12	24
		33.3%	16.7%	50.0%	100.0%
合計		182	116	95	393
		46.3%	29.5%	24.2%	100.0%

p<.01

q15a-c[教員についての意見]とq30-31の相関係数

		q30[学生生活充実]	q31[大学の選択]
q15a[教員についての意見: 気軽に相談できる]	Pearson の相関係数	.245**	.253**
	有意確率 (両側)	.000	.000
	N	393	394
q15b[教員についての意見: 的確なアドバイスをくれる]	Pearson の相関係数	.229**	.210**
	有意確率 (両側)	.000	.000
	N	392	393
q15c[教員についての意見: 意見を尊重してくれる]	Pearson の相関係数	.208**	.209**
	有意確率 (両側)	.000	.000
	N	392	393

**：相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

そこで、次に問16の大学入学時と比べて大学の授業で向上した知識や技能の項目についても、愛着度や充実度との相関をみることにしよう。

q16a-hとq30-31の相関係数

		q30[学生生活充実]	q31[大学の選択]
q16a[授業を通じた能力向上: 根拠を示し簡潔に書く]	Pearson の相関係数	.260**	.180**
	有意確率 (両側)	.000	.000
	N	390	391
q16b[授業を通じた能力向上: 考えや意見を他人に伝える]	Pearson の相関係数	.342**	.247**
	有意確率 (両側)	.000	.000
	N	391	392
q16c[授業を通じた能力向上: 物事を多面的に考える]	Pearson の相関係数	.276**	.175**
	有意確率 (両側)	.000	.001
	N	390	391
q16d[授業を通じた能力向上: 文献や資料を読み解く]	Pearson の相関係数	.286**	.191**
	有意確率 (両側)	.000	.000
	N	390	391
q16e[授業を通じた能力向上: 文献や資料を探す]	Pearson の相関係数	.244**	.135**
	有意確率 (両側)	.000	.008
	N	390	391
q16f[授業を通じた能力向上: 数量的に分析する]	Pearson の相関係数	.021	.068
	有意確率 (両側)	.683	.180
	N	391	392
q16g[授業を通じた能力向上: 外国語]	Pearson の相関係数	.066	.195**
	有意確率 (両側)	.196	.000
	N	390	391
q16h[授業を通じた能力向上: 異文化の理解]	Pearson の相関係数	.128*	.112*
	有意確率 (両側)	.011	.027
	N	390	391

** . 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

* . 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

上の表から、授業をつうじて知識や技能が向上することは、総じて愛着度と充実度の両方を高めている。ただし、数量的な分析力や外国語のスキル、異文化理解については相関がないか弱い相関にとどまっている。この点についてどう考えたらいいだろうか。一つには、aからeまでの項目については、そもそも向上したと
思っている人が多く、反対に、fからhまでの3項目については、向上したと感じている人が相対的に少ない
(前者に比べて20-50%ものひらきがある) ということが理由ではないだろうか。したがって、前者のグルー

プについても相関が高かったのも、総じて自己評価が高いことに留意する必要があるだろう（巻末の度数分布表を参照のこと。）

先ほどの社会関係に関する項目の延長で、次に問24の交際圏との関係を試みよう。これについても、すでに同じ学科の先輩や後輩に友人がいたり、他学科や他学部にも友人がいることによって学生生活の充実度が高まることがわかっている。では、愛着度との相関はどうだろうか。

q24b-cとq31の相関係数		
		q31[大学の選択]
q24b[交際圏: 同学科の先輩・後輩]	Pearson の相関係数	.143**
	有意確率 (両側)	.004
	N	397
q24c[交際圏: 他学科・他学部の友人]	Pearson の相関係数	.253**
	有意確率 (両側)	.000
	N	396

** . 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

やはり、大学への愛着度についても、同様に高い相関が見られ、上下関係や横のつながりにおいて、同じ大学内での少し広いネットワークをもっていることが、二つの要因を同時に高める強い影響力があることがわかった。

4.4 まとめ

これらの分析の結果、全ての項目で大学への愛着度と学校生活充実度が同様に相関しているわけではないことが分かった。

大学への愛着度や学生生活充実度は様々な影響を受けて、関連させて、学生が決めているのだと知った。一見、相関してそうだなと思う項目とはそうでなかったりして、驚いた。今回私が分析した項目以外にも相関しているものがあると思う。さらに、その部分を分析したいと思う。

また、これらの結果を見て、単に大学への愛着度と学生生活充実度とのクロス集計からでは分からなかったことが多くあった。この2項目そのものを分析すると、「相関している」という結果になったが、各々の項目で分析すると決して「完璧に相関している」とは言えないと思った。

色んな項目によって決められる大学への愛着度と学生生活充実度が、今後より高い水準となる大学へと進化すればいいと思う。